

2017年5月26日(金) メディカルはこだて第62号 掲載

『ドクタークローズアップ』

腫瘍内科 笹木 有佑 科長

DOCTOR closeup

函館中央病院腫瘍内科科長

笹木 有佑氏



ささき ゆうすけ
平成19年弘前大学医学部卒業。
札幌北楡病院、函館中央病院、国立がん研究センター
中央病院に勤務。

平成28年3月順天堂大学大学院医学研究科修了。
同年4月函館中央病院腫瘍内科科長兼外来化学療法セ
ンター長に就任。

日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医。

「大腸がんで使用できる抗
がん剤は15年前には2～3
種類だけでしたが、現在は
11種類あります。胃がんも
8種類あり、これらの中か
ら個々の患者に最も適した
抗がん剤の組み合わせを選
ぶためには専門的な知識が
求められます」。

昨年4月函館中央病院に
新たに開設された腫瘍内科
の科長（兼外来化学療法セ
ンター長）に就任したのが、
がん薬物療法専門医の笹木
有佑医師だ。日本臨床腫瘍
学会認定のがん薬物療法専
門医は、質の高いがん薬物
療法を実現するために幅広
い臓器のがん薬物療法の知
識と技術を持つ専門医で、
この資格を有するのは道南

では笹木医師だけだ。
青森市生まれの笹木医師。
小学生の時に慕っていた祖
母が片目を失明するが、そ
の出来事をきっかけに医師
になることを決意、弘前大
学医学部へ進学した。「医
者になつたとき、祖母はと
ても喜んでくれました」。

函館中央病院では消化器
がんの化学療法をほとん
ど1人で担当している。「が
んはその種類や進行度に応
じて、手術や放射線治療、
薬物療法（抗がん剤）など
の様々な治療が必要になり
ます。抗がん剤治療は手術
後に行うことで術後の再発
を予防したり、手術ができ
ない状態のがんの進行を食
い止めたりすることが目的
の治療です」。

近年は胃がんや大腸がん
など消化器がんで次々に新
しい薬が開発されている。

次々に開発される薬から最も適した組み合わせを選択 抗がん剤治療の専門医として最善の治療を目指す

得した。
函館中央病院では消化器
がんの化学療法をほとん
ど1人で担当している。「が
んはその種類や進行度に応
じて、手術や放射線治療、
薬物療法（抗がん剤）など
の様々な治療が必要になり
ます。抗がん剤治療は手術
後に行うことで術後の再発
を予防したり、手術ができ
ない状態のがんの進行を食
い止めたりすることが目的
の治療です」。

笹木医師は「今後も抗が
ん剤の最新の知識を習得し、
質の高い最善の治療を提供
できるように努めていきた
い」と話している。